

本号の編集について

山田 達宏

『アジア経済』通巻100号記念特集号（1969年）、同200号記念特集号（1978年）に引続きまして、ここに通巻300号記念特集号を刊行する運びとなりました。

以下、本特集号について若干の説明をいたします。

1. 利用していただく読者層については、発展途上地域に関する研究誌としての『アジア経済』の性格上、専門の研究者を想定していることはいうまでもありません。しかし、同時に入門者、学生、実務担当者からも広く読まれることを期待しています。

2. レビューの対象および範囲は、原則として通巻200号記念特集号（1978年）以降、1985年12月末日までに日本国内で発表された学術的論文ないしは著書としました。日本人・外国人の別なく日本語以外で発表されたものもとりあげています。訳書でも日本の研究に影響を与えた著作はとりあげるようにしました。さらに、テーマによっては諸外国で発表された論文・著作も論題に関係するかぎりでもとりあげているものもあります。

通巻200号記念特集号の発行時と比べ、発展途上地域研究が質量ともに充実してきたという背景があり、かぎられた誌面ではそれらすべてにわたってレビューするのは不可能と言えます。本特集号では網羅性は特に重視せず、各執筆者の抱く関心によって文献の取捨選択の基準も多様となっております。そして上記の時期的限定にとらわれず、資料的価値の高いものや研究の流れに大きな影響を与えたものは、誌面の許すかぎり通巻200号発行時以前に遡って言及しております。また、通巻200号記念特集号

ではとりあげられなかった地域や課題、さらに、あらためて再評価が必要となっているものについても、言及することとしました。

3. 文献リストについては、本特集号のカバーする時期は上記同様1985年12月末日現在としました。しかし、できるかぎり最近刊のものまでとりあげているものもあります。

4. 本特集号では、地域編はサブリージョンを設定して国と地域の区別をより明確にしました。しかし、この設定はあくまで便宜的なものです。アフガニスタンと太平洋島嶼諸国が新たに加わりました。テーマ編ではマクロ経済、金融、所得分配、債務累積、労働移動・雇用、技術移転、企業経営、従属論・世界システム論・接合論、教育、地域研究論が加わりました。また通巻200号記念特集号でとりあげた主要書誌の解説は当研究所発行の『発展途上地域日本語文献目録』（各年版）を参照していただくこととして、本特集号からは割愛しました。

5. 各編、各項にわたって、叙述の仕方に若干の不整合がでていますが、地域、テーマごとに研究の在り方や、密度を異にしているなどの事情からやむをえないものがありました。あらかじめ、お断わりしておきたいと思います。

本特集号が、前回と同様に、研究サーベイとして、地域研究入門書として、また実務上の知見を整理補填するものとして、各方面から広く活用されることを願ってやみません。

（やまだ・たつひろ／アジア経済研究所）
広報部部長・『アジア経済』編集人